

葛井寺 ★

(地図①)

葛井寺は、紫雲山三宝山院剛琳寺と号し、剛琳寺ともいいます。古代氏族葛井氏の氏寺として、七世紀後半に建立されました。西国三十三箇所観音堂の第五番札所として全国から多くの参詣者が訪れます。本尊の乾漆千手観音坐像は国宝、四脚門は重要文化財に指定されています。毎月十八日には、本尊の国宝乾漆千手観音坐像が公開されます。



道明寺天満宮 ★

(地図⑦)

道明寺天満宮は、もと土師氏の氏神として成立し、のちに土師氏の子孫でつながらの深い菅原道真公を祭神に加え天満宮として成立しました。宝物館には、国宝である伝菅公遺品のほか多くの文化財が所蔵されています。また、梅の名所としても名高く、毎年二月から三月上旬に開催される梅まつりには全国から多くの参拝者が訪れます。



道明寺 ★

(地図⑬)

道明寺は七世紀中葉に土師氏の氏寺として建立された土師寺を起源とし、建立当初は道明寺天満宮の南側参道付近に位置し、現在も塔心礎が残っています。その後、戦国時代の戦火や江戸時代の石川の洪水による荒廃が原因で道明寺天満宮の境内地に移り、さらに明治時代の神仏分離令によって現在地に移されました。国宝である本尊の十一面観音坐像は正月三箇日、毎月十八日と二十五日に拝観することが出来ます。



津堂城山古墳 ★

(地図⑥)

四世紀後半に築造された古市古墳群では最も古い大型前方後円墳です。墳丘長は二百八七mで、二重の濠と堤を持ちます。後円部頂では明治末年に長持形石棺を納めた竪穴式石槨が確認されており、鏡、玉、石製腕飾類等が出土しています。現在、後円部頂は宮内庁によって陵墓参考地として管理されています。また、内濠の鳥伏施設から出土した水鳥形埴輪は国の重要文化財に指定され、アイセルシユラホールに展示されています。



仲姫陵古墳

(地図⑬)

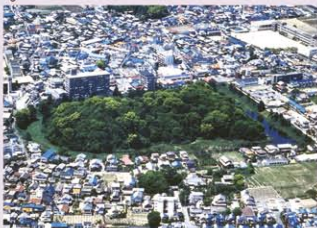
五世紀前半に築造された大型前方後円墳です。台地の最高所に位置し、墳丘長は二百九十mで、古市古墳群では応神陵古墳に次ぐ大きさを誇ります。内部施設や副葬品については、石棺があることや勾玉が出土したということが伝わっていますが、堤では発掘調査によって円筒埴輪列や葺石が確認されています。後円部側には、陪塚と考えられる一辺五十mの方墳である鍋塚古墳があります。



允恭陵古墳

(地図⑭)

国府台地の北端に立地し、五世紀後半に築造された墳丘長二百三十mの大型前方後円墳です。その整美な外観は古墳時代中期の代表的な墳形といわれています。内部施設や副葬品については不明で、外堤上で円筒埴輪列は確認されていません。外側の溝から出土した埴輪は、密着して焼成された製品で、円筒埴輪のほか家・盾・鞆・蓋・人物などの形象埴輪が出土しています。



仲哀陵古墳

(地図⑫)

墳丘長二百四十二mの大型前方後円墳で、幅の広い濠と幅の狭い堤を持ちます。内部施設や副葬品については不明ですが、堤などから出土した埴輪から五世紀末から六世紀初頭の築造と考えられています。後円部側に陪塚と考えられる墳丘長六十mの鉢塚古墳があります。



辛國神社 ★

(地図③)

「延喜式」にも記載のある古い歴史をもつ、物部の祖を祀ったことに始まります。室町時代には春日の神を合祀し、春日丘にその名を残しています。その後、明治時代になって長野神社を合祀しました。深い緑に包まれた長い参道は「大阪みどりの百選」にも選ばれています。なお「延喜式」とは平安時代に編纂された法令集で、その神名帳に記載のある神社を一般に式内社と呼ばれます。



伴林氏神社 ★

(地図⑦)

「延喜式」にも記載された古い神社であり、高皇産靈神を主祭神とし、古代豪族の伴氏やその一族林氏の祖先神である道臣命と天押日命を祭神とする林の氏神です。軍事を司った伴氏の祖神道臣命を唯一祀る神社で「西の靖国神社」と称され、昭和十五年の新社殿完成の際には、靖国神社より明治五年に建築された手水舎が移築されました。



黒田神社

(地図⑧)

「延喜式」にも記載された由緒ある神社で、中世より北條天満または天王と呼ばれ、「稲霊」を祀るといわれます。主たる祭神の天御中主神は神徳も高く、府下でも祭祀する神社は非常に稀です。本殿脇には南北朝時代に造られた建徳三年と刻す石燈籠が一基あり、市指定文化財になっています。



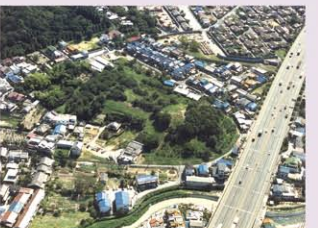
寺社

史跡

古室山古墳 ★

(地図⑭)

古市古墳群形成期の四世紀後半に築造された墳丘長百五十mの前方後円墳です。内部施設や副葬品については不明ですが、円筒埴輪列が確認されており、家盾、甲などの形象埴輪が採集されています。台地の高所に位置するため眺望は随一で、季節によって梅や桜を楽しむことができ、多くの市民に親しまれています。



三ツ塚古墳

(地図⑮)

仲姫陵古墳の南側に東西方向に並んだ三基の方墳の総称です。東から八嶋塚古墳、中山塚古墳、助太山古墳といえます。三基の古墳は周濠を共有し、南辺を揃える特異な景観をしています。一辺五十mの八嶋塚古墳と中山塚古墳は宮内庁によって管理され、一回り小さい一辺三十六mの助太山古墳は国の史跡にも指定されています。昭和五十三年に八嶋塚古墳と中山塚古墳の間の周濠底部分から大小の修羅が見つかり話題となりました。



長持山古墳出土石棺 ★

(地図⑫)

長持山古墳は、五世紀後半に築造された直径約四十mの円墳です。残念ながら昭和三十年頃までに墳丘を消失しました。昭和二十一年には発掘調査が行われ、円筒埴輪列、二基の石棺が確認されました。二基の石棺は、遠く九州の阿蘇山で産出する溶結凝灰岩製の割立式家形石棺で、大阪府の有形文化財に指定されています。明治時代に銅器、鉄剣、甲が出土したと伝えられ、現在ホスト美術館に所蔵されている神人画像鏡は、この時出土したものでいわれています。



志貴県主神社

(地図⑨)

この地域に志紀県主という大和朝廷の直轄地があり、それを治めていた豪族志紀県主が奉斎していたことから、この社名の由来と推測されます。志紀県主の祖先神で神武天皇の長子である神八井耳命を祭神とし、「延喜式」にも記載されている古い神社です。中世には楠木正成の祈願所でしたが、楠木氏の衰微とともに衰退しました。



小山善光寺 ★

(地図④)

天正年間まで城山古墳の後円部外側に接する善光寺屋敷といわれる位置にあったとされましたが、織田信長による河内攻めの戦火で焼失したため、慶長年間に僧宗珍により現在の地に再建されました。小山善光寺には有名な「本田善光の伝説」が伝わっており、それは寺に遺る「善光寺参詣曼荼羅」からもみることが出来ます。毎年四月二十四日に本尊一光三尊如来像のご開帳があります。



産土神社

(地図⑤)

室町時代には神仏習合思想のもとに神宮寺として再建され、明治時代の初期まで祭神を牛頭天王としていました。その後、神仏習合の習慣を禁止する神仏判然令により小山牛頭天王社から進進神社に改められ、現在は産土神社として、素盞鳥命他一柱を祭神として祀っています。本殿は一間社流造で、幕殿は桃山様式をもち、虹梁や木鼻等は江戸時代前期のもので推定されます。本殿の主要部分は創建当時の状態をよく止めており、藤井寺市内で最古級の神社建築として大変貴重です。また、境内には金刀比羅神社と稲荷神社が祀られており、市内では珍しい存在です。



国府遺跡 ★

(地図⑩)

国府遺跡は、旧石器時代から中世に至る集落遺跡です。大正六年に日本で初めての本格的な発掘調査が実施されて以来、縄文時代から弥生時代の人骨が計九十体検出されています。また、飛鳥時代には衣縫麿寺が創建され、塔心礎は現在でも史跡内に残っており、国の史跡に指定されています。地名からも連想されるように奈良・平安時代には河内国府が設置され、河内国の政治の中心地であったと考えられています。



もくげんじ

(地図⑯)

土師寺五重塔塔心礎の西側にある西之宮神社の境内にあり、菅原道真公が五部の大乘経を書写し、その大乘経を納めた経塚から生えたと伝わります。もくげんじの実て念珠を作り、念仏百万遍すれば極楽往生できるという効験を説いた「謡曲道明寺」でも有名です。現在のもくげんじは数代目のもので、昭和四十五年に「道明寺のもくげんじ」として大阪府の天然記念物に指定されています。



弘法の腰掛石

(地図⑰)

その名のとおり、弘法大師が腰を掛けたと伝えられる石です。その他に、この地で弘法大師が水を乞った時に、水を献じた地区の井戸水が澄んだという言い伝えがあります。腰掛石は、道明寺を南に下った東高野街道沿いにあり、今でも地元の人々に大切に祀られています。

